

普及現地情報

発信年月日:令和7年(2025 年)7月28日
所 属 名:大津・南部農産普及課
番 号:A25005
発 信 者 名:北川



栗東市特別栽培米部会で猛暑に打ち克つイネづくりを指導しました

7月1日、JAレーク滋賀栗東営農経済センターによる栗東市特別栽培米部会の研修会が開催され、当課は高温下での水稻栽培について指導しました。

近年、記録的な高温が頻発し、従来の栽培方法では収量・品質が維持できなくなっています。県では「猛暑に打ち克つイネづくり」として穂肥の適期施用や幼穂形成期前後3週間の常時湛水を指導しています。

栗東市特別栽培米部会では、環境こだわり農産物のコシヒカリを学校給食用として、JAに出荷しています。研修会では、部会員 13 名の出席があり、当課から高温障害対策としての施肥や、斑点米カメムシ類対策について説明を行いました。

室内で研修を行った後、ほ場で葉色板の使い方を実演し、実際の葉色と葉色板の値を照らし合わせました。実演をすることで、生育状況について共通認識を持つことができました。

出席者からは、「なぜ一発肥料でも穂肥が必要になるのか」「倒伏は大丈夫か」など積極的な質問が出され、当課から、「高温で肥料の発現が早まり、肥効が早く切れるため、一発肥料であっても肥料切れを起こすおそれがあること」「穂肥を適期に施肥することで倒伏を助長する可能性は低いこと」を説明しました。今回の研修会で、高温の中での栽培技術について理解を深めていただくことができました。

当課では、収量・品質を安定して確保できるように研修会や現地指導を通じて支援を続けていきます。



室内研修



ほ場で葉色の見方を説明